巻頭言

未来を切り拓く教育

1979年に本誌の前身である『教育資料』という冊子が創刊されました。2001年に『中部大学教育研究（Journal of Chubu University Education)』として衣替えをし、今号で第23号となりました。今号ではライフキャリア教育科目「自己開拓」の教育効果、コロナ後の対面授業など５編の研究論文、学生支援、地域との連携、語学教育、PASEOの観点から４編の実践研究・実践報告、１編のTOEICに関する教育資料、そして、FD活動評価点検委員会からの本学が誇る『魅力ある授業づくり』の振り返りを編纂しました。これらの論文や報告には、教育研究とその実践における新たな知見や実践的なアプローチが含まれており、大いに参考になることと思います。

我が国の2022年の出生数はおよそ77万人でした。前年よりも４万人の減少、５年前からは約20万人もの減少となっています。この状態が続けば「少子超高齢化社会」が現実味を帯びてきます。昨年度は、国公私立大学約800校のうち、600校ある私立大学の53.3％にあたる320校の入学定員充足率が100％未満となりました。人口減少の影響がじわじわと拡がっていると言っても過言ではありません。昨今のいわゆる大学全入時代では、予測困難な時代を生き抜く自律的な人材を育成する「学修者本位の教育」が重要視されることとなりました。

この「学修者本位の教育」とは、読んで字のごとく、教育の核心を学生に置くことを意味します。かつての大学のイメージとは異なり、現在は教職員と学生とで創りあげることが大学のあるべき姿となっています。旧来の教育の枠組みを超え、個々のニーズや学習スタイルを考慮しながら、自ら学び、問題を解決し、創造性を発揮できるような環境を整えることが求められています。

「学修者本位の教育」への転換が求められることにより「教学マネジメント」を確立することが必要不可欠となりました。そのための最重要ポイントである、３つのポリシーを改めて明確にした上で、それらのポリシーを通じた学修目標の具体化、授業科目・教育課程の編成・実施、学修成果・教育成果の把握・可視化、教学マネジメントを支える基盤（FD・SD、教学IR)、情報公表を機能させ、教育活動の改善に活用しなければなりません。教学マネジメントは、効果的な学習環境を築くための重要な要素です。学生の資質の適切な育成、教育方針の策定、教員と学生とのコミュニケーション促進、評価方法の改善など、多岐にわたる要素が含まれます。これらの要素が組み合わさることで、学生がより充実した教育を受けることが可能となります。

教育は常に変化し続けていますが、学生へのアプローチを中心に据え、教育の質を高めていくことが、より意義のある未来を築く鍵であると考えられます。そして、社会の礎であり、将来を担う人材の育成において重要な役割を果たしています。そのためにも、この『中部大学教育研究』が、教育の新たな展開や成長を支援するための場となり、教育の未来を切り拓いていくことを心より願います。

2023年12月

中部大学　学長
竹　内　芳　美